

それぞれの街なかアートを考える

ゲスト：芸工展実行委員会 手嶋尚人さん、山田絵美さん



第14回 金沢文庫芸術祭「街なかアート」開催地、アオバ+ARTの一角から道
住宅地の路地を歩き、地域の特色を感じながらアート活動もろくろくしない、楽しみのひとつ

手嶋尚人 てしま・なおと
芸工展実行委員、東京家政大学造形表現学科准教授、建築家
東京芸術大学大学院(前野研究室)修了。大学院時代より谷中のまちづくりグループ「谷中学校」設立。谷中芸工展等を企画運営。まちづくりの視点からアートやアーティストの役割・可能性について関心を持つ。

農家の蔵があり、ニュータウンがある。へ都筑アートプロジェクトを旗揚げした金井聡和さんが「風景が地層になっていく」と土地の性格を読み解くように、彼ら自身がまちに感じている面白さを外向けに記述できていないのが惜しい。言語でも伝えられると、より伝わりやすくなるのでは。



大の学生・卒業生など多くのスタッフを抱えているのですが、想いの強い人が数多くいることがパワーなんだと思います。お話を伺った井上さん、さきさん、堀えみさん、想いの強い人です。

山田：物理的なことではアサバアートスクエアのように、スタッフが気軽に集まることのできる場所があるというのは運営上、大きいと思います。

手嶋：芸工展でも拠点があった時期は集まりやすかった。ボランティアも参加しやすいです。継続の力にもなっているように思います。

どのようなか運営しているかは、活動にも反映されてきそうですね。

手嶋：運営側のタイプや意識、興味によって実はカラーの違う物であるということも言えます。それに、プロジェクトの位置づけもあると思います。

アーティストが参加してそこで成長する場なのか、まちづくりとして創造的行為を共有して楽しむ場になるのか。

我々の芸工展はまちづくりに軸がある

「横浜アートサイト」については、どのような印象をお持ちですか？

手嶋：全体を見渡すことができるようなニューレターを作っていること、横浜アートサイトを通じてネットワークができていくのがあるなと思いました。地域になにかやるという事があるものですね。ポランテアベアスの運営スタイルだと、何かがあったときにどうして「しよん」としてしまっ。けれど、同じような事をしている仲間がいるというだけで元気がなれます。

山田：芸工展と他団体の違いを知ること自分たちがやっていることの意味付けができると感じました。横浜アートサイトに参加している各団体の運営状況は非常に参考になりました。



横浜アートサイトとは
横浜が魅力的なまちになることを目指し、それぞれの地域で活動するアートプロジェクトの発展と成長をサポートする場です。そのために、一年を通じて参加者間のネットワークや研修、情報の交換や共有に取り組んでいます。公益財団法人横浜市芸術文化振興財団と横浜市文化観光局が連携して実施しています。

<http://www.yaf.or.jp/artsite>

横浜アートサイト2012 対象開催期間 2012年7月1日(日)～12月31日(月)

東京谷中周辺地域で二十一年間、まちなみアート・工芸に光を当てる活動を続ける「芸工展」。実行委員を務めるお二人をお招きし、横浜アートサイトの「街なかアート」を語っていただきました。

「今回お二人には「A O B A + A R T」の「金沢文庫芸術祭」の街角アートラリー「都筑アートプロジェクト」を巡って頂きました。まちの中でアートを見ることが、どのように感じているのでしょうか？」

手嶋：最近では建物でさえ工業製品の様に画一化されています。同じような家が立ち並んでまちが次々と生まれている。僕としてはまちの中に何かエネルギーを感じるものが欲しい。

例えば「A O B A + A R T」の展開している地域は私有地と公用道路が明快に分かれているように思います。そこで展開するアートは、私的空間とパブリックの境界線を崩して中間領域を作り出すようなものになっていくのかなと。空間にまだ遊びのあった谷中でも、ほとんど家が建て変わって、中間領域がなくなっています。

だからそこに「アート」のような「人の想いのあるもの」があればまちが楽しくなるなと、まちに作品を残して欲しいですね。

高齢化で閉塞感が出てくるような地域では、アーティストが刺激になってまちを元気にし、その刺激を求めて若い人も寄ってくる。ただ、そのときアーティストがどうやって食べていけるのだろうか。

山田：「A O B A + A R T」では、作品を常設化することに意識があるそうですね。そこで問題となってくる日常的メンテナンスを、地域住人が作品を購入し、所有した人がメンテナンスするという形で解決しているのと同じです。実際に作品を買ってくださった方もいるそうです。まちなかにアートを展開しているプロジェクトで、作品が実際に売れているという事例は珍しいものかと。

「取り組みの印象はいかがでしたか？」

手嶋：「金沢文庫芸術祭」の街角アートラリーは芸工展と似たような取り組みだと思いました。ただ、僕らと違い、お祭りの1 DAY イベントも開催していますね。これはいいなと。関わっている人が皆でまとまることのできるタイミングにもなり、楽しそうですね。広域に長い期間で展開する街角アートラリーと本立期間にする、それぞれの良さがあるように思いますが、ただ、両方やるというのもエネルギーが必要ですね。

山田：私は「A O B A + A R T」のドキュメントブックが良かったです。こうした記録の蓄積はプロジェクトが次のステップに進むときに必要なものですね。外向けにも「こういふことをやっていたんだ」とイメージを定着させることができるといいですね。

「都筑アートプロジェクト」は公共空間に切り込んでいっている所に面白味を感じました。高架下や駅構内で展開している、よく許可を取っていただきた。

手嶋：開催地であるセンター北駅周辺の面白さもあります。古代遺跡があり、

Coming soon !! | 11-12月 イベントinformation

- F. 11/4(日)10:00-15:00 ワークショップ 市立横浜商業高校文化祭「Y校祭」
- M. 11/4(日)11:00-15:00 カドベヤまつり
- M. 11/6(火)13:00-19:00 足湯カフェ 慶應生によるJOYnt CAFE
19:00-21:00 ストレッチと夕めし「大人になってダンスする入り口」(案内人：黒沢美香)
- J. 11/7(水)16:00-18:00 ゼロボデイワークショップ
- I. 11/8(木)14:00開演 ほっとたつはな亭サロンコンサート(会場：ほっととと別館)
- C. 11/10(土)25(日) 長者町アート☆プラネタリウム Chapter2,まちの展示
- P. 11/10(土)10:00-15:00 YNU SHORT FILMS (会場：Wit Wada)
- C. 11/11(日)16:00-19:00 北川純「まちあるき&エロはかるた大会」
- K. 11/11(日)13:30-16:00 アートdeスクール⑩「自然の恵みをいかした草木染め」～蘇芳(すおう)・くぬぎ
- M. 11/13(火)13:00-19:00 足湯カフェ
19:00-21:00 ストレッチと夕めし「むすぶ、つながる」(案内人：アーティストU)
- J. 11/14(水)16:00-18:00 ゼロボデイワークショップ
- I. 11/16(金)11/30(金) ギャラリー巡回展(会場：鶴ヶ峰地域ケアプラザ)
- C. 11/17(土)16:00-19:00 杉山孝貴&タムラタキ「まちあるき&トーク」
- C. 11/18(日)16:00-19:00 上益益雄&竹本真紀「まちあるき&トーク」
- M. 11/20(火)13:00-19:00 足湯カフェ
19:00-21:00 ストレッチと夕めし「呼吸でからだが強くなる」(案内人：武藤浩史)
- I. 11/20(火)14:00 街角コンサート・フルトデュオ(会場：ゆいまー)
- N. 11/23(金・祝)17:00-19:00 第3回寿灯祭
- C. 11/24(土)16:00 川村真枝&吉井千裕「宇宙体験」
- C. 11/25(日)18:00 嶋田勇介「ダンス」
- K. 11/25(日)13:30-16:30 アートdeスクール⑪「5感ワークショップ」～ちがいがあもしろい
- M. 11/27(火)13:00-19:00 足湯カフェ
19:00-21:00 ストレッチと夕めし「身ぶりとことばでダンスを作る」(案内人：稲田奈緒美)
- J. 11/28(水)16:00-18:00 ゼロボデイワークショップ
- I. 12/4(火)1/11(金) ギャラリー巡回展(会場：今宿西地域ケアプラザ)
- M. 12/4(火)13:00-19:00 足湯カフェ
19:00-21:00 ストレッチと夕めし「カドベヤの十二月を舞う」(案内人：花崎三千花)
- I. 12/5(水)14:00 松井イチロー・クリスマスジャズコンサート(会場：ほっととと別館)
- J. 12/5(水)16:00-18:00 ゼロボデイワークショップ
- K. 12/9(日)13:30-16:00 アートdeスクール⑫「自然の恵みをいかした草木染め」～藍・茜
- O. 12/9(日)12/23(日) エメカ・オグボウ×アサダワタル 共同制作
- M. 12/11(火)13:00-19:00 足湯カフェ
19:00-21:00 ストレッチと夕めし「むすぶ、つながる」(案内人：アーティストU)
- J. 12/12(水)16:00-18:00 ゼロボデイワークショップ
- J. 12/14(金)15:00-16:00 演劇公演「そらみみ ソファ」～Across The Borderline!～
- L. 12/14(金)18:00-21:00 冬至キャンドルナイト@善了寺
- F. 12/15(土)16(日)16:00-21:00 光のふるむなあと2012
- M. 12/18(火)13:00-19:00 足湯カフェ 19:00-21:00 ストレッチと夕めし
「みえないものをみてえがく・創る～心の眼でみて楽しもう」(案内人：山口修)
- M. 12/25(火)13:00-19:00 足湯カフェ
19:00-21:00 ストレッチと夕めし「カドベヤ de クリスマス!」

- ワークショップ 展示 音楽
- パフォーマンス キャンドルナイト&その他

*参加費、開催地など詳細は各参加団体HPをご覧ください。
*イベント主催団体は参加プロジェクト一覧のアルファベットと対応しています。
*期間や日程は変更の可能性あります。詳しくは各団体のHPなどをご参照下さい。

お問合せ：横浜アートサイト事務局(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)
TEL:045-221-0212 E-mail:artsite@yaf.or.jp Twitter:@ArtSite Facebook:www.facebook.com/yokohama.artsite HP:www.yaf.or.jp/artsite 文化芸術による地域づくり事業「横浜アートサイト2012」

横浜アートサイト2012



around YOKOHAMA ARTSITE

それぞれの街なかアートを考える

ゲスト：芸工展実行委員会 手嶋尚人さん、山田絵美さん

「アートサイト便り」

～参加団体スタッフ有志レポーターによる秋のアートサイト取材レポート

11-12月 イベント information

横浜アートサイト イベント予定

*青画面にイベントInformationが盛りだくさん!

長者町アート☆プラネタリウム

11/10(土)～25(日)
横浜の不夜城、中区長者町に誕生したアート拠点「CHAP(長者町アートプラネット)」を中心に、まちの魅力に迫るアートイベントを開催。

11/10(土)18:00 オープニングパーティ
11/11(日)16:00 北川純「まちあるき&エロはかるた大会」
11/17(土)16:00 杉山孝貴&タムラタキ「まちあるき&トーク」
11/18(日)16:00 上益益雄&竹本真紀「まちあるき&トーク」
11/24(土)16:00 川村真枝&吉井千裕「宇宙体験」
11/25(日)18:00 嶋田勇介「ダンス」
会場：長者町アートプラネットChapter2と、その周辺
最寄り：京急本線日ノ出駅 問合せ：045-334-7230(ちりめん、や)

大岡川アートプロジェクト

光のふるむなあと2012
12/15(土)～16(日)16:00～
大岡川の遊歩道と蒔田公園親水広場「ふれあいアクアパーク」に光のアートが出現。水と光、そして人々の交わりの場となる地域密着型イベント。

会場：大岡川遊歩道、蒔田公園親水広場など
最寄り：市営地下鉄ブルーライン吉野町駅、京急本線南太田駅
問合せ：大岡川アートプロジェクト実行委員会
070-5557-9924(杉山)

アートサイト 便り



～参加団体のスタッフ有志レポーターによる、 秋のアートサイト取材レポート

横浜アートサイト参加団体のメンバーがプロジェクトを訪問してレポートする『アートサイト便り』(2011年度からスタート)。レポーターは有志で結成しています。アートプロジェクトを手がける一員が、訪問先の活動に触れて感じた生の声を聞いてみましょう。

Facebook

更新中!

www.facebook.com/yokohama.artsite



動物園劇場 ワークショップ、売店



「街と自然とアートの体感」 ～金沢文庫芸術祭・街角アートラリー～」

取材文
長者町アート☆プラネタリウム
斉須春美

十月下旬とは思えない暖かい日差しの中、「金沢文庫芸術祭街角アートラリー」を訪問しました。「街角アートラリー」は十月一日～十月十五日の期間中、金沢区内の様々な場所でアート展示ワークショップ、ライブパフォーマンスなど二十三日の出展者が個性溢れる催しを行うアートイベントです。

今回その中から二つをピックアップしご紹介致します。ひとつはサンコアラプレイバックシアター公演。プレイバックシアターとはニューヨークで生まれた台本なしの即興劇。観客の体験思いを司会者に伝え、それをアクターが打合せなしに即興で演じます。

最初は心の中を見られてしまうような不思議な気持ちになり、それが何故か演技が終わるととても気持ちがいいと感じました。アクターの一人、飯田さん(仮名)は、日々実践練習を繰り返して、聞いてみたところ、日々実践練習を繰り返して、身体を動かす、時には相手の体験と自分の体験をリンクさせることで、自然に表現することが出来るようになった。

初めての体験に心躍りつつ、次は稲藁製の吊るし飾り&パップワーク展へ。こちらは普通のご自宅を開放したスペースに吊るし飾りや様々な細工が美術館のように展示されていました。吊るし飾りは地域の伝統的なモチーフを飾るものが多くありますが、作家の大谷さんのオリジナルモチーフもあります。ひとつひとつ丁寧に繊細な作品はまさに芸術。展示の仕方もありオリジナルがあり、作品をますます引き立てていました。

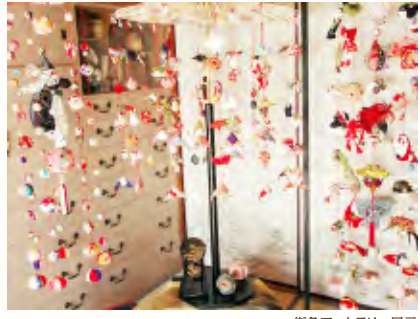
最後にアサハアートスクエアへ。金沢文庫芸術祭の拠点でもあるアートあふれる空間でした。中庭ではダンスやワークショップ、ライブも開催されます。

私は、目のみの体験でしたが、金沢文庫の自然とアートが一体となり、澄み切った青空に心が潤っていました。皆様も是非体験してみてください。また、気持ちの良い時間を過ごしてください。

(取材日: 2012年10月8日)



アサハアートスクエア



街角アートラリー展示



プレイバックシアター公演



秋晴れの中、動物園劇場におじゃました
取材・文 金沢文庫芸術祭 井上えつこ

「動物園劇場って何だろう」と思いながら、野毛山動物園を目指してみたら、その道々で楽しい催しのお出迎えがありました。横浜市青少年交流センターのふりーふらっと野毛山では、青少年委員の若者たちが作る焼きそばと作品展示。斜め前の野毛山公園では、太極拳や紙芝居、バルーンアートなど8団体が演奏や演技を披露。そのまた斜向かいの野毛山荘では、パンの販売と折り紙ワークショップや写真展示。そして野毛山動物園では、親子連れが賑わう中、元ゾウの檻だったという広場に、ダンスや音楽の野外ステージがありました。少し汗ばむ陽気の中、あっちこちとろろするのが楽しくて、4つの会場を何度も往復しました。

今回が第1回目の動物園劇場、実行委員長五十嵐洋志さんが活動に関わったきっかけは、幅広い市民活動を企画したいという気持ちからだそうです。始めてみると、施設や地域の方たちは協力的で前向きなアイデアがどんどん出ました。今後は地域の人が主導権をもって自発的に活動できるよう手助けできたらとおっしゃいます。

忘れてはならないのが、この会場でもアートサイトつながりが生きていたということ。都筑アートプロジェクトの今井紀彰さんがシロクマの檻の中でワークショップをしていたり、我が金沢文庫芸術祭の「お絵描きパト」を展示させていただいたり。そういうつながりが嬉しいなあと思いつつ、動物園劇場を後にしました。(取材日: 2012年9月29日)



「子どもの創造性をアートでつなぐ」コミュニティ・ミュージックセラピー(CoMT)の新たな可能性をめぐって」発表会



神奈川県立こども医療センターには、高い天井から陽光の降り注ぎ、まろい形のカラフルなソファが置かれた、外車ロビーがあります。一般的な病院よりも和やかな印象なのは、入院や治療のために来院している子ども達、警備員さんがニコニコ遊んでいたりするからでしょう。この日はコミュニティ・ミュージックセラピー(CoMT)として数回開催された音楽療法ワークショップの発表会。ロビーの一角がステージに変わり、大きな楽器を抱えた大人達、いつもよりお酒を飲んだ入院中の子ども達も揃って、発表会のスタートです。今年参加した子ども達も楽器を演奏できる子が多かったそう。「あそびまわに見てもらおう」という気持ちで一生懸命に演奏する姿を見せてくれました。



取材・文
寿オルタナティブ・ネットワーク
友川綾子

医療の現場で、子ども達が生き生きと音楽を！
「よこしま音楽広場」



つづく、まちなかのアート AOBART
取材・文 アフリカからのお客さんプロジェクト 黒木皇

少し冷たい秋雨がふる十月半ばに、青葉区の閑静な住宅街「美しが丘」を舞台に活動するAOBA+ARTさんのONE DAYイベントを訪問しました。

田園都市線「たまプラーザ駅」から美しい町並みをしばらく歩くと会場の自治会館に到着。なにやら賑やかなシニアの方々がたくさん。そう、この日はアート・ユニットのトーチカさんによる、空中にペンライトの光で絵を描いてアニメーションを作るワークショップ「PiKaPiKa」に、地域の老人会、「緑風会」の方々が多数参加されていたんです。出来上がった作品からはシニアのみなさんが楽しんだ様子が一目で伝わってきます。

「この歳でまた新しい世界観に触れられて感動。実は以前のアート作品(注:池田光宏の住民参加型作品、「青葉食堂」のこと)をいまでも自宅で楽しんでいるよ、こうやって毎年にかやってくれるのが嬉しい。」と緑風会の会長さん。

午後には親子連れなど地元の子供たちが次々と訪れ、大忙しのトーチカさんの様子に、地域のさまざまな住民とかかわろう、という気持ちが高まります。僕がAOBA+ARTさんのイベントにお邪魔するのは昨年につき今年が2回目。昨年はまちなかで大きな展示会を開催されていました。

「大きなイベントが続くと住民との丁寧な関係づくりが難しい。」とスタッフの野見山さん。次回の企画を実施するために、地域の集会に参加したり、今回のようなワークショップのなかで作品を作ったりして、地域とのかかわり方をじっくり考えていくとのこと。

さらなる継続的な活動に向け、多様な人々とながら方法を探るAOBA+ARTのみなさん。今後、この美しい丘の町にどんな風を吹かせてくれるのか、とても楽しみです。(取材日: 2012年10月14日)



クリエイティブユニット、トーチカによる「PiKaPiKa」ワークショップ



リスの大冒険 2012
ゴドモアートキャラバン 特別編手作りアイテムで変身しちゃおう!
「キラキラ☆かんむり」を作るワークショップ



さかえdeつながるアートはワークショップの達人
取材・文 寿オルタナティブ・ネットワーク 友川綾子

8月、栄区民文化センター・リスのイベントに参加している、さかえdeつながるアートさんを訪問しました。参加されていたのは「リスの大冒険」という子どもたち向けのイベント。ワークショップ各種やコンサート、障がい者施設の手作りパンや手作り工芸品を売るバザールなどがいっぺんに行われ、お祭りのような賑やかさです。さかえdeつながるアートさんは、「キラキラ☆かんむり」を作るワークショップを担当されているとか。多くの子も参加できるように、30分間でワークショップを行い、10分で準備、そしてまた次の回と、目の回るようなタイムテーブルが組まれています。それなのに、ワークショップが始まると実に落ち着いたもの。お姉さん先生のアコさん、サエさんが、紙芝居をしながらかりやすくワークショップの手順を説明。各テーブル担当スタッフが上手に誘導して制作。出来上がるカメラを持ったスタッフが子ども達の満足顔をバシャリと記念撮影! 素晴らしいチームワークとスムーズな進行に感激しました。「さかえdeつながるアートさんはワークショップの達人集団。」そう確信した、まだまだ暑さの厳しかった夏の日でした。(取材日: 2012年8月25日)

「線路の下のアートの旅へ 都筑アートプロジェクト」
取材・文 長者町アート☆プラネタリウム 斉須春美



「線路の下から旅にでる」というキャッチフレーズに魅かれ、向かった都筑アートプロジェクトで最初に目にしたのは、線路下に集まる沢山の子どもたち。不思議に思い近づいてみると、楽しそうに手袋が何個か作っていました。よく見るとその手袋はひとつであったり、動物であったり、空想の生き物であったり。

なぜ線路下でワークショップ? 担当する今井紀彰さんにお話を聞いてみました。

「普段は大勢のひとが素通りするフェンスで囲われた線路の下で、ひとが集まって笑ったり走り回ったりしている場所も喜んでくれているような気がするんです。」

こうした活動は眠っている場所の魅力をアートで呼び起こすことにつながっています。線路下スペースに展示されている作品を見ると、大きな生き物が空を飛び、ミラーボールが輝き、ひとの毛を集めて作った巨大なキノコが植えられ…。作品の中には東日本大震災後の混乱時、タンクローリー車が東北へ向かって何台も何台も通る姿にインスパイアされ、アーティスト自身の故郷・東北への思いを込めた竹のアート作品もあります。多くの市民の皆さんが楽しそうにそうした作品を見ていました。

現代アートはとくなく難しいと思われがちですが、この空間はまだ感じるままに作品を見ることが出来る場所ではないでしょうか。この旅は近いけれど心の奥深くに残るようなアートの旅を皆さんも是非体験してみてください。(取材日: 2012年10月8日)



山下若菜(つるつるつるをみる)

岡典明(ピクニック)

都筑アートプロジェクト2012
ニュータウンARTトリップ
線路の下から旅に出る
高架下展示



クムラタケミ(飛行無常のヒカリあり)

阿部剛士(Power of Tohoku)

今井紀彰(ツルニヤマト)